

覚えておいて損はなし！ 親知らずQ&A



こんにちは。
この時期は毎年残暑の厳しい季節ですが、
日が落ちれば涼しい日も増えてきました。
過ごしやすくなるまで、今しばらくの辛抱ですね！

そんな「辛抱」といえば、
みなさんは**ついつい億劫になって、
歯医者に行くのを我慢**してしまったり
後回しにしてしまったり、
ということはありませんか？

特に「親知らず」は、
むし歯などと違って病気ではないので、
「できれば治療したくない」
という方がほとんどかと思えます。

そこで今回は、
いざという時のために覚えておいてほしい、
親知らずのQ&Aをご紹介します！

Q1. それほど痛くないから放置しても平気？

**A1. 痛みがあったら放置はせずに、
早めに受診しましょう！**

あまり痛くない、または、
痛なくなっただけからといって放っておくと
命にかかわる場合もあります。

**親知らずが痛む原因の多くは、
細菌感染によるもの**です。

放置していると感染範囲があごや喉などに広がり、
最悪の場合、心臓にまで至って命の危険にさらされます。
痛みを感じたときには、我慢せずに早めに受診してください。

Q2. 必ず抜かないといけないの？

A2. 必ずしも抜歯が必要になるわけではありません。

しかし、「繰り返し炎症を起こしている」場合や
「周囲に悪影響を及ぼしている」といった恐れがあるときには、
抜歯をおすすめすることがあります。

こんなときは
抜歯をおすすめすることも…



Q3. 抜いたあとに痛みはある？

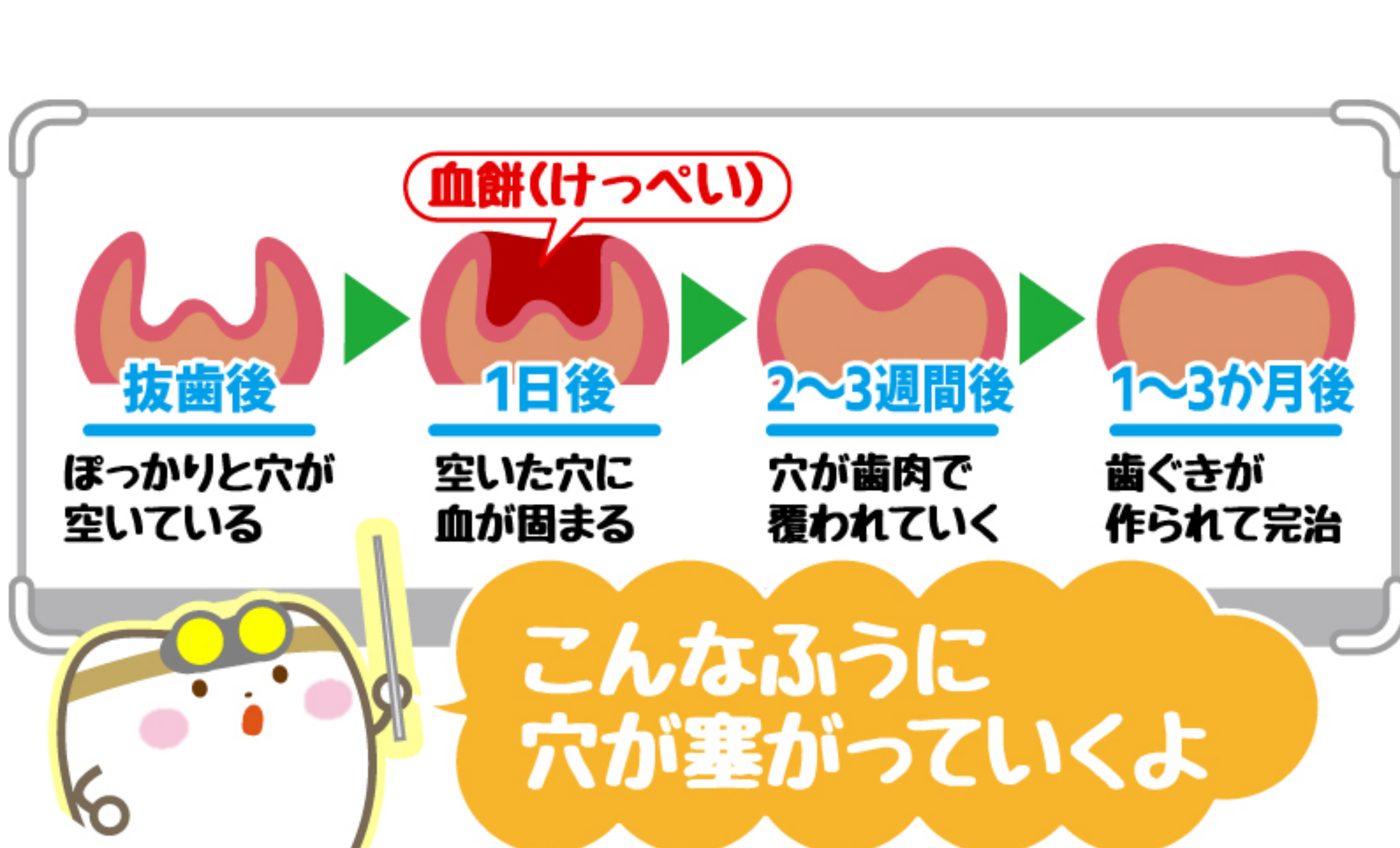
A3. 麻酔が切れたあとに痛むことがあります。

施術中は麻酔が効いているため痛みはありませんが、
「下の歯」や、「骨に埋まっていた歯」などを抜歯した場合、
痛む可能性が高くなります。

そのため、痛みが出そうなときは、
事前に痛み止めの薬を飲むように指示することもあります。

また、歯を抜いた箇所はぽっかりと穴が空いて、
骨がむき出しになります。

通常はその穴に血液がたまって『血餅（けっぺい）』となり、
徐々に傷口がふさがっていくのですが、
人によっては痛みや違和感、腫れが続くこともあります。



しかし、気になるからといって
舌や歯ブラシで触ったりしてしまうと、
傷の治りが遅くなるばかりか、
痛みが激しくなるという可能性も。

抜歯後は、歯科で説明された注意事項をよく守り、
安静に過ごしてくださいね。

SEE YOU
NEXT TIME

